

請 願 文 書 表	
受理年月日 及び番号	令和5年6月6日 第10号
件 名	「グリホサート農薬」のっていない安心安全な学校給食の提供を求める請願
請 願 者	<div style="background-color: black; width: 100%; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="background-color: black; width: 60%; height: 15px; margin-bottom: 5px; margin-left: 20px;"></div> <div style="background-color: black; width: 40%; height: 15px; margin-left: 40px;"></div>
紹介議員	関川 けさ子
請願の要旨	次頁のとおり
付託委員会	文教委員会

請願理由

2022年の文部科学省の調査によると、小中学生の8.8%に学習や行動に困難のある発達障害の可能性があることが発表されました。前回調査（2012年）と比べて、2.3ポイント増えています。原因の究明が急がれるのと同時に、今すぐできることは、「安全性に疑いがあるものは使用しない」という予防原則での対応です。文京区の学校給食のパンには、輸入小麦が使用されています。農水省の残留農薬検査では、アメリカ産小麦からは97%、カナダ産小麦からは100%グリホサートが検出されています。

2015年、WHOの下部組織である国際がん研究機関（IARC）は、除草剤ラウンドアップ（主成分グリホサート）を「人に対しておそらく発がん性がある」と発表しました。アメリカでは、ラウンドアップを使用してがんになったという訴訟が12万件以上起きています。グリホサートは発がん性のみならず、多様な毒性が指摘されています。2020年、千葉大学の研究グループでは、妊娠中のグリホサート摂取により子どもの自閉症スペクトラム障害などの神経発達障害の病因に関係する可能性が、マウス実験で示されたと発表しました。

ラウンドアップは世界40カ国以上で禁止や規制がされています。しかし日本では、2017年にその流れに逆行し、残留基準値が最大400倍に緩和されました。さらに問題なのは、農薬の毒性試験では、市販されている農薬が使われていないことです。農薬は、主成分と補助剤で構成されます。ラウンドアップの補助剤は毒性が強く、主成分グリホサートの1000倍以上とカーン大学セラリーニ教授は指摘します。それにもかかわらず、日本では、補助剤の強毒性は無視して、主成分のみで毒性試験が行われています。輸入小麦に残留するのは、主成分グリホサートだけではありません。子ども達は、強毒な補助剤も同時に体内に取り込むのです。

2022年に「全国オーガニック給食フォーラム」が開催されるなど、全国の学校給食で安心安全な食材を使う動きは広がっています。「グリホサート残留のない国産小麦を使用して下さい」との署名活動が行われた熊本県は、昨年からは学校給食会で国産小麦を使用することになりました。学校給食で米飯や国産小麦を使用することは、国内農家を支えることとなります。東京大学の鈴木宣弘教授は「実際の食料自給率は38%どころか10%あるかないかという惨状である」と日本の現状を指摘しています。海外からの物流が停止したら、世界でもっとも餓死者が出るとの試算もあります。食は、私たちの命と直結しています。子どもの健康を守り、日本の農家を守るため、学校給食には安心安全な国産を使用して下さい。

以上のような観点から、文京区議会に対して下記の事項を請願いたします。

請願事項

- 1 子ども達の命と健康を守るため、予防原則に基づき、グリホサート残留の可能性が高い輸入小麦は学校給食での使用をやめて、国産小麦または米飯にするよう区に求めること。
- 2 国が安全とする基準値は主成分のみから算出されており、ラウンドアップの補助剤の強毒性が無視されているため、輸入小麦を使用するのであれば、今の1000倍以上厳しい安全基準値を独自に設定するよう都教育委員会に求めること。
- 3 保護者や子どもが学校給食でのグリホサート残留数値をいつでも調べられるように、低濃度の残留が検出可能な検査施設での検査、定期検査の実施、東京都学校給食会ホームページ上での検査データの公開を都教育委員会に求めること。
- 4 農薬は、市販される農薬（補助剤も入れて）から残留基準値と一日摂取許容量を算定するよう国に求めること。
- 5 農薬の毒性試験（発がん性・慢性毒性・発達神経毒性など）は、市販される農薬（補助剤も入れて）を使用して行うよう国に求めること。